

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770082

研究課題名(和文) 近世期怪異観の基礎的研究 近世怪異小説を中心として

研究課題名(英文) Early modern period grotesque sense of fundamental research-early grotesque novel centering-

研究代表者

門脇 大(Kadowaki, Dai)

神戸大学・人文学研究科・人文学研究科研究員

研究者番号：30634133

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究の主目的である「近世期怪異観の解明」に関して、特に18・19世紀を中心とした研究を行い、その成果を学会発表・論文・共著で公表した。18世紀中期以降に流行した心学の資料を中心とした研究と、中世・近世・近代を横断する化物の研究の2つの方向性を主軸として研究を行った。研究が進展するとともに、近世怪異小説そのものよりも、その周辺分野の研究を進める必要が生じたため、やや当初の計画を変更しつつ研究を進めた。

また、公表するに至らなかったものの、近世怪談とその周辺分野に関する基礎研究を行った。その成果は次年度以降に順次公表する。

研究成果の概要(英文)：About "the elucidation of the view strange for the early modern times period that was the main purpose of the study", I performed the study mainly on 18・19 centuries in particular and announced the result by a presentation at the meeting, an article, a joint work. I studied two directionality of the study mainly on the document of "Shingaku" that was popular after the mid-18th century and the study of the monster which crossed the Middle Ages, the early modern times, the modern times as a main shaft. Because a study progressed, and it was necessary to push forward the study of the neighboring fields than strange novel itself in the early modern times, I pushed forward a study while changing a slightly original plan. In addition, I performed a ghost story and the fundamental researches about the neighboring fields in the early modern times although I did not come to announce it. I announce the result sequentially after the next fiscal year.

研究分野：日本文学

キーワード：近世 怪異小説 怪談 心学 化物

1. 研究開始当初の背景

本研究は、これまで行ってきた「近世怪異小説における怪異否定の研究」(科学研究費補助金 特別研究員 DC2・2010～2011年度)を基盤としている。これまでの研究においては、18世紀中期に集中的に刊行された怪異現象・怪異譚の暴露・否定・説明を行う「弁惑物」と称される作品群を中心として、主に18世紀の怪異小説とその周辺分野(儒教・国学・心学・仏教など)を怪異否定という観点から検討してきた。その結果、近世期の弁惑物に多様な怪異観があることを見出すに至るとともに、近世怪異小説の周辺には様々な学問分野が広がっており、弁惑物がその様相を鮮明に映し出していることが明らかになった。

本研究は、上記の研究をさらに発展させ、怪異否定を含めた怪異観の変遷を共時的・通時的に明らかにしようとするものである。その際、特に18・19世紀の怪異小説と、その周辺分野と考えられる心学・国学・仏教などとの関係性を視野に入れて研究を遂行しようと考えた。弁惑物を含めた18・19世紀の怪異小説に着目することによって、近世怪異小説に通底する怪異否定や怪異観を鮮明にすることができる考えたからである。また、同時期の怪異小説の周辺分野を検討してゆくことによって、共時的な文化事象として怪異小説を読み解くことができると考えたためでもある。さらに、江戸時代から明治時代へという時代の変遷を視野に入れて研究することによって、より広い視座から近世怪異小説と、そこに通底する思想を明らかにすることができる考えた。

以上のように、これまでの研究によって、弁惑物に顕著に認められる怪異否定の思想や怪異小説の周辺分野には、未だ不明な点が多く、解明する必要性を強く感じるようになった。特に、怪異小説と周辺分野との関係性には、検討する余地が十分に残されていることが判明した。この点を明らかにすることによって、従来の怪異小説研究からは見えてこなかった、当時の怪異観の実態を鮮明にすることができる考えた。怪異観の実態を明らかにして、江戸から明治期へと変遷する様相を検証することによって、広く文化的な観点から怪異小説とそこに通底する思想を読み解くことができると考えるに至った。

本研究は、以上のような背景を備えて開始された。

2. 研究の目的

本研究は、18・19世紀を中心として、近世期における怪異観の実態とその変遷を探求し、怪異小説と周辺分野との相関関係を明らかにすることを主目的とする。

その際、弁惑物を手掛かりにして、その周辺分野の諸資料を用いた研究を行う。特に、従来は十分に研究されてこなかった心学などの通俗的な資料を精査して、従来とは異なる

怪異観の探究を行う。そうすることで、従来の研究では不明な点が多かった近世怪異文芸の広がりを明らかにする。

また、江戸と明治という時代の変節点に着目することによって、怪異観の変遷、引いては思想の変容の一端を明らかにすることを目的とする。

以上が、本研究の基本的な方向性と目的である。本研究により、18・19世紀の怪異小説に通底する思想の究明と、近世から明治期にかけての怪異観の変遷、および文学作品と諸学問との関係を明らかにする。また、怪異小説や弁惑物の基底を探求する過程において析出される思想の系譜を通史的に俯瞰することを試みる。そうすることにより、文学研究のみならず隣接する関連分野における研究に寄与すると考えられる。

3. 研究の方法

本研究は、主に以下の2つの観点から研究を遂行する。

第1に、弁惑物を中心とした18・19世紀の怪異小説と周辺分野の研究である。弁惑物・怪異小説の周辺分野として、儒教・国学・心学・仏教を設定し、両者の関係を具体的に把握する。この研究は、自身のこれまでの研究を発展させるものである。具体的には、怪異小説の周辺分野として、儒教と国学、心学と仏教を設定する。これらの資料を収集し、個別の作品研究を通してそこに記されている怪異観を抽出する。儒教と国学では、新井白石『鬼神論』(儒教)と平田篤胤『鬼神新論』(国学)を主な研究対象とし、本研究の問題意識に沿って作品を分析し、そこに表出している怪異解釈の思想と同時代の怪異小説の影響関係を明らかにする。心学と仏教では、継続して資料収集・整理を行い、収集した資料から本研究の目的に合致する言説を抽出し、分析する。18・19世紀の心学書・仏書に見られる怪異解釈に関する言説を分析し、その実体を究明する。

第2に、近世期怪異観の明治期における受容の研究である。弁惑物に顕著に表れている怪異否定の思想は明治期にも及んでいる。具体的には、井上円了(1858-1919)の研究成果とその著述に引用されている近世・明治期の資料を収集して、近世期怪異観の変遷と明治期における受容の様相を明らかにする。また、円了の他、本研究と密接に関わる明治期の弁惑物の系統に属する作品を渉猟し、収集・整理する。それらの資料を基にして近世期の怪異解釈との共通点・相違点を明らかにするとともに、これらを踏まえて、近世期から明治期へ怪異解釈がどのように継承されていったのかを通史的に位置づける。

本研究は、以上の2つの観点を主軸として研究を進める。研究の方法としては、資料の収集・整理を行いつつ、個別の資料の読解を行う。そして、それらを本研究の目的に従って、通史的な位置づけを試みる。

4. 研究成果

本研究を通して、18・19世紀の怪異観の一端を究明した。特に、従来はあまり取り上げられなかった心学の資料を積極的に検証して公開した。このことにより、教訓と強く結びついた怪異観の表出を具体的に明らかにした。また、中世・近世・明治と時代を横断し、分野も超えて研究を遂行した結果、従来の特定の時代・分野に限定した研究手法からは見えてこなかった怪異観の変遷を明らかにした。研究成果として、具体的に以下の2つを挙げることができる。

第1に、心学、通俗教訓書に関する研究である。心学や通俗教訓書に関する研究は、従来の文学研究の立場からは十分に行われてこなかった。しかし、本研究の進展に伴い、それらと近世怪異文芸、引いては近世文芸との関係性は明らかであり、両者の影響関係を究明する必要性が認められた。そこで、本研究においては、これまでに具体的な検討が行われてこなかった資料を積極的に取り上げて分析し、近世怪異文芸との接点を見出した。その結果、心学資料に認められる化物を紹介して、教訓性と強く結びついた18・19世紀の怪異観の一端を明らかにした。また、弁惑物と引用関係が認められる随筆（『居行子後篇』）を具体的に分析することにより、18・19世紀の怪異観には、一種の不可知論が認められることを明らかにした。

第2に、近世期怪異観の通史的研究である。具体的には、著名な化物（妖怪）として知られる天狗や海坊主を取り上げて、通史的な検討を行った。この研究では、特定の作品・資料に限定して分析するのではなく、近世期を中心として隣接する時代の資料との比較を試みた。また、研究対象とする資料の分野も広く取り上げた。この研究によって、化物に関する資料から見えてくる怪異観の変遷を明らかにした。通史的な読解を通して、時代と分野によって多様な展開を見せる怪異観を明らかにした。

以上の2点が、本研究における主な研究成果である。また、研究成果を公表するに至ってはいないものの、当初の研究目的であった近世怪異小説、および周辺分野の基礎調査、資料の分析を行った。

なお、本研究を通して見えてきた課題も多い。上述のように、本研究では、心学を中心とした教訓書に関する研究成果があり、その意義は十分に認められるものと考えられる。しかし、心学を中心とした通俗的な資料から抽出された仏教・儒教・老荘思想の実態は十分に検証するに至っていない。また、それらと怪異小説や近世文学との関係性も十分に検証できていない。このような課題は、本研究が基礎研究に重点を置いたことによって出てきたと考えられる。本研究によって、心学や教訓書に関する基礎資料の収集・整理は進展し、一定の研究水準を得た。今後は、本研究を踏まえて、上記の課題を検討する。こ

のことにより、従来の怪異文芸研究、引いては近世文学研究において十分な検討が行われてこなかった、心学や通俗的な資料の実態を究明し、思想の変遷を明らかにすることができると思われる。

また、本研究の当初の目的であった、怪異小説の周辺分野である儒教や仏教に関する研究成果、および近世期から明治期への怪異観の変遷に関する研究は、未だ公表に至っていない。しかし、これらに関しても資料の収集・整理、分析といった基礎研究は行ってきた。この基礎研究を踏まえて、これらに関する研究成果を順次公表してゆくこととした。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2件)

- 1) 門脇大、「江戸の見立化物 『古今化物狐心学』、心学の化物」、『怪異・妖怪文化の伝統と創造 ウチとソトの視点から』(国際研究会報告書第45集、国際日本文化研究センター) 2015年、pp.175-189、査読無。
- 2) 門脇大、「『居行子後篇』巻之四「妖怪之説」 近世怪談の一脈」、『日本文藝研究』(関西学院大学文学部) 67-2・68-1 合併号、2016年、pp.25-47、査読無。

〔学会発表〕(計 2件)

- 1) 門脇大、「弁惑物とその周辺 『居行子』を手がかりとして」、『日本文学協会第33回研究発表大会、日本文学協会、神戸大学(兵庫県神戸市)、2013年7月。
- 2) 門脇大、「江戸の見立化物 『古今妖物狐心学』、心学の化物」、『第45回国際研究会、国際日本文化研究センター、国際日本文化研究センター(京都府京都市) 2013年11月。

〔図書〕(計 2件)

- 1) 『天空の文学史 雲・雪・風・雨』、鈴木健一編、三弥井書店、2015年、pp.374。共著。門脇大、「天狗と風 怪異観をめぐる一考察」、『pp.218-233。
- 2) 『海の文学史』、鈴木健一編、三弥井書店、2016年、pp.316。共著。門脇大、「海の化物、海坊主 化物の変遷をたどる」、『pp.231-248。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

無し。

6．研究組織

(1)研究代表者

門脇大 (Kadowaki Dai)

神戸大学・大学院人文学研究科・研究員

研究者番号：30634133

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()